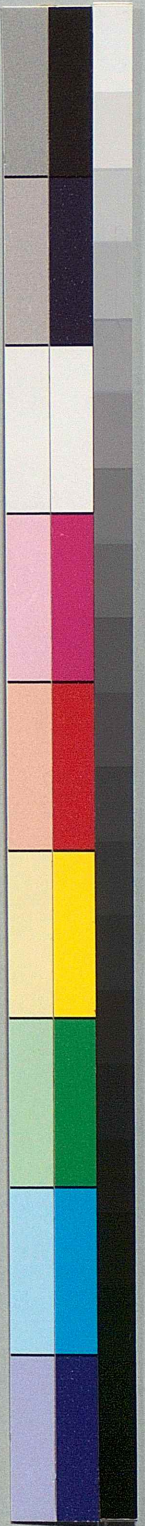
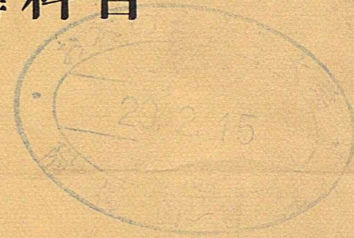


〔学生便覧別冊〕

昭和33年度開講科目

お茶の水女子大学



目 次

昭和33年度開講科目	1
一般教育関係授業時間割	58
附	
1. 昭和33年度行事予定	53
2. 各科補導委員	55

昭和33年度開講科目

お茶の水女子大学

- 凡例
1. 科目名からそのまま内容が推定されるものについては、説明を省いたものもある。
 2. 科目名の順序その他は必ずしも一定の形にそっていない。
 3. 講義内容欄のローマ数字は、適当と思われる履修年次を表す。

一般教育科目および外国語			
科 目 名	担当教官	講 義 内 容	
◎一般教育科目			
○人文科学系列			
哲 学	藤 田 石 塚	(I、II) 哲学についての一般的な序説の後、西洋哲学思想史を古代中世(前期)近世(後期)に涉つて概説する。	
心 理 学	阪 本	(I) 一般心理学を概説し、心理学の一般的知識を学ばせる。	
宗 教 学	岸 本	宗教現象、宗教思想の客観的立場からの体系的な研究、歴史的概説。	
文 学 I	関 根	(I) 平安時代の文学。その中で代表的な清女と紫女の文学の文学について考	

昭和33年度開講科目 正誤表

(誤)

(正)

P. 4 三、現代文学に----

三、現代文化に----

P. 10 哲学演習(2)の最後
--- oder tot?

--- oder tot?

P. 12 下から二行目
Einführung

Einführung

P. 13 西洋史演習Bの内容の
Probleme

Problem

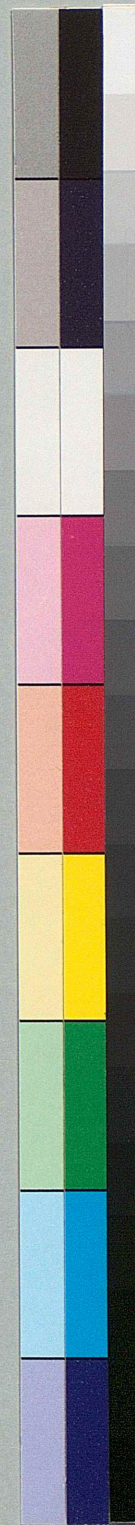
P. 36 最後の行
構造化学 児島

構造化学 長倉

P. 58 授業時間割(水、1.2時限)
基礎物理学II

基礎生物学II

P. 37 (挿入) 追加 動物発生学 (四) (II後)
同 実験 動物発生学 (四) (II後)
数種の動物に於ける個体発生の経路を概説し、主な発生現象
について比較考察する。



文学 II	鍋島	え、その作品を通して二人の作家像をも考える。テキストの読解も重視するから難解な中古文をよみほどく労を必要とする。 世界文学及び比較文学の立場から見た西洋文学の解説 (用書) 板垣直子: 文学概論。 定価 230円 (森の道社)
美学・美術史	町田	(前期) 具体的な造形芸術を対象とする美学。つまり芸術学概論。 (後期) 日本美術史及び東洋美術史の概説。
音楽(声楽)	藺田	(I、II) コールユーブンゲン、コールシュレー、ダノーゼル等による基礎唱法(ソルフェージュ)、古典及浪漫を中心とする合唱曲による合唱法。
○社会科学系列		
法学 I	井上茂	日本国憲法。
政治学	同	政治学。
法学 II	潮見	できるだけ具体的な事例をおりこんだ家族法を中心とした民法の講義。
社会学	大橋	(I、II) 社会学の一般理論および研究領域についての概説を行う。
歴史学	尾鍋	(I) 前期のみ。テキストは尾鍋「西洋史概説下巻」
歴史学	市古	(I) 後期のみ。中華人民共和国がどうして成立したかという問題を中心にして、近代中国を概観する。
経済学	武田	(II) ①人類の経済の歴史の上で資本主義とよばれる経済様式は如何にして発生し、如何なる経過をたどつて今日にいたつているか。 ②その資本主義は如何なる法則にしたがつて運動しているか。 ③その法則を解明することの我々にとつての意義はどこにあるか。

文化人類学	石田	文化人類学はいかなる歴史的背景のもとに成立し、いかなる学史的発展をとげて来たか、現代文明とはいかに対決するか、等々の問題を、この学問の独自の対象たる文化の概念を中心として考察する。
人文地理学	能	自然環境及び地域の概要。
家政学	松平	(I、II) 家政学の一環、初歩の家計簿記(後期のみ)。
○自然科学系列		
数学	林田	(文、家、I) 数学における色々な話題。ラーデマツヘル・テプリツツ著「数と図形」東京創元社を使用。
物理学	玉木	(I) 物理学を歴史的に、なるべく数式を扱わずに説明する。
化学 A	岡嶋	一般教育としての化学通論(主として文教育学部、家政学部「児童、被服学、の一部」等に対するもの)。
同 B	同	化学 A に同じ。
生物学(動物学)	荒木	(I 後) 動物を中心にして、生物学の一般を紹介する。
生物学(植物学)	太田	(I 前) 細胞、性、遺伝を中心として生物学の一般を紹介する。
地学	赤木健	(I) 太陽系に所属する地球について、諸学説、地球中心説より太陽中心説となる変遷の歴史。地球の構造。火山の構造と噴火の形式。地震について。飾石及宝石の話。
地学(天文気象)	佃	気象学全般にわたる基礎的な現象の概説並に天文学のうち特に我々の日常生活に密接な関係のある事項について。

○総合コース

(I.) 初等的な統計的解析について述べる。

題目「現代社会の動向と人間関係」(8単位 分割履修可能)

一、総説(蠟山)

二、歴史過程における現代(尾鍋)

三、現代文学に現れた精神的状況と人間関係

- (1) 哲学的世界観——人間の自己疎外とその恢復(藤田)
- (2) 信教の自由と諸教団の成立(小口)
- (3) 文学における意識の問題(鍋島)
- (4) 芸術の世界性と郷土性(谷田)
- (5) 新しい音素材の探究(柴田)

四、東西文明の交流と教育の問題「現代的課題」(周郷)

五、大衆社会とマス・コミュニケーション(波多野)

六、科学技術文明の方向と社会関係の対応

- (1) 現代資本主義と社会主義
 - A 現代資本主義の歴史的考察(安藤)
 - B 社会主義の諸問題(武田)
- (2) 現代における階級、民族、国際関係(蠟山)

七、アジアにおける科学技術の発展と伝統文化

(1) 日本(勝部)

(2) 中国(市古)

(3) インド(荒)

八、現代科学の特質 (菅井)

九、物質諸科学の発展 (")

(1) 理論物理学の二つの変革 (")

(2) 現代の物質観 (")

(3) 原子力の解放 (")

(4) サイバネティクス (")

(5) 現代科学と産業の変革 (")

十、生命諸科学の進歩

(1) 現代の生命観 (八杉)

(2) 生命の起源と進化 (")

(3) 現代の医学思想 (平井)

(4) 精神生理学の展開 (")

十一、現代科学技術と社会(菅井)

◎ 外国語

英語

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

- 木原 (文 I A) T. S. Eliot: Notes Towards the Definition of Culture (大学書林) ¥ 120
- 中村 (文 I A) A. J. Cronin: The Citadel (南雲堂)
- 伊吹 (文 I B) Agatha Christie: Philomel Cottage, The man from the Sea (研究社)
- 中村 (文 I B) Vining: Windows for the Crown Prince (研究社)
- 野島 (理 I) T. Wilder: The Bridge of San Louis Rey (家 I、理 I、及び幼稚園教員養成課程 1 年)
- 堀 G. K. Chesterton: The Innocenes of Father Brown (大阪教育図書)
- 滝沢 (家 I) Three American Stories 野崎孝編 (研究社)
- 滝沢 (文 II A) 教科書 Galsworthy: Dark Flower (Summer) 神山正治編 (雲溪書房)
- 堀 (文 II A) J. Hilton: Time and Time Again (京都 山口書店)
- 西崎 (文 II B) 教科書 Herbert Read: To Hell with Culture
- 野島 (家 II) D. H. Lawrence: The Man who Died (家 II) A. M. Lindberg: Gift from the Sea (金星堂) ¥ 120
- 木原 (文 II B) J. Conrad: Heart of Darkness

同

同

同

同

ドイツ語初級

同

同

ドイツ語上級

同

ドイツ語高級

ドイツ語初級

同

西崎

堀

トムソン

志田

同

同

同

同

同

同

- (理 II) A. N. Whitehead: Science and the Modern World
- (理 II) 教科書 E. Caldwell: Southways (幼稚園教員養成課程二年) Watts-Dunton: Aylwin (英宝)
- (各学部 I) 英会話
- (文 I) 初級文法 4 時間 2 単位・初級読本 2 時間 2 単位と併せて履修すること。(テキスト) 野本:新ドイツ文法・アカシア書房
- (家 I) 初級文法 4 時間 2 単位・初級読本 2 時間 2 単位と併せて履修すること。(テキスト) 野本:新ドイツ文法・アカシア書房
- (理 I) 初級読本 2 時間 2 単位・初級文法 4 時間 2 単位と併せて履修すること。(テキスト) 森川:新ドイツ語小説本・第三書房。
- (文 II) 上級講読 2 時間 2 単位。(テキスト) Thomas Mann: Goethes Werther 南江堂
- (理家 II) 上級講読 2 時間 2 単位。(テキスト) Adalbert Stifter: Das Heidedorf・郁文堂
- (全 III IV) 高級講読 2 時間 2 単位。一般外国語 8 単位外の自由選択単位とし、原則として初級及び上級ドイツ語を既に履修した III IV 学年を対象とするが II 学年でも選択してよい。(テキスト) Goethe: Faust・研究社
- (全 I) 初級補助教材として併用。(テキスト) 中村・志田:ドイツ民謡集 南江堂

ドイツ語初級	横溝	(家I) 初級読本2時間2単位・初級文法4時間2単位と併せて履修すること。 (テキスト) 笹沢:ドイツ語教養読本・東京外語出版社。
ドイツ語上級	同	(文II) 上級講読2時間2単位。(テキスト) H. C. Andersen : Das Kleine Mädchen mit den Schwefelhölzchen 第三書房
同	同	(理家II) 上級講読2時間2単位。(テキスト) W. Hauff : Die Geschichte von der abgehauenen Hand 第三書房
ドイツ語初級	吉田	(文I) 初級読本2時間2単位・初級文法4時間2単位と併せて履修すること。 (テキスト) 森川:新ドイツ語小読本・第三書房
同	同	(理I) 初級文法4時間2単位・初級読本2時間2単位と併せて履修すること。 (テキスト) 浜中:ドイツ文法20章・第三書房
同	外人 講師	(IIIIV) 独-会 話
フランス語初級	田島	(全I) 初級読本2時間2単位・初級文法4時間2単位と併せて履修すること。 (テキスト) 久保; Petit cours de Francais 白水社
フランス語上級	同	(全II) 上級作文2時間2単位・(テキスト) 坪井:やさしいテーマ・大学書林 丸山・松原; 作文「フランス語語学文庫」白水社
フランス語高級	同	(全IIIIV) 高級講読2時間2単位。一般外国語8単位外の自由選択とし、原則 として初級及び上級フランス語を既に履修したIIIIV学年を対象とするがII学年 でも選択してよい。(テキスト) Stendhal; Le Rouge et le Noir 海外版。
フランス語初級	小泉	(全I) 初級文法4時間2単位初級読本2時間2単位と併せて履修すること。 後期にはフランス文学短篇集の講読に進む。(テキスト) 小泉:新フランス文法入門 大学書林

フランス語上級	小泉	(全II) 上級講読2時間2単位。(テキスト)モオパッサン短篇集〔昨年度より の継続、逐次スタンダールなど19世紀文学作品に進む。〕
◎ 一般体育		
保健体育講義	森	(I前期前半) 体育の主要問題について述べる。
同	戸倉	(I前期後半) 女子の体育の重要性について述べ欧米に於ける体育事情の知識 を与える。
同	渡辺	(II) 健康のための基礎的理論
体育実技	森	(I、II)
	戸倉	
	林	
	石山	
	古江	

専 門 科 目

(文 教 育 学 部)

哲 学 科

科 目 名	担当教官	講 義 内 容
哲学通論	藤 田	(Ⅲ) 哲学全体に渉る主要問題として知識、文化、歴史、実践人間存在等の基礎的知識
哲学特講 (19世紀の哲学)	同	(Ⅱ) ヘーゲル哲学解体以後19世紀後半のドイツ哲学。シェリング後期の哲学からキエルケゴール、シヨープンハウアー、ブルクハルト、ニイチェに至る。
哲学演習(1)	同	(Ⅱ) Jaspers: Vom Ursprung und Ziel der Geschichte
〃 (2)	同	(ⅢⅣ) Heinemann: Existenz philosophie lebendig oderrtot ?
西洋倫理 思想史概説	勝 部	(Ⅰ) 西洋倫理思想の展開過程を、古代・中世・近代・現代の4つの時代区分に従つて、それぞれにヘレニズム・ヘブライズム・近代科学精神・現代実存のリアリズムという4つの型を吟味する。
倫理学概論	同	(Ⅱ) 倫理学を、人倫の理法、時空の理法、価値の理法において分析し、さらに倫理学と他の諸科学との関係をしらべ、最後に実存の倫理をみつかる。
日本倫理 思想史概説	同	(Ⅲ) 日本における倫理思想の展開過程を五つの型においてとらえる。本年度は、特に東西文化の比較研究という観点から、扱つていきたいとおもう。
論 理 学	石 塚	(Ⅰ) 形式論理学

近世哲学史	同	(Ⅱ) デカルトからヘーゲル哲学崩壊後まで。
哲学史演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) Kant: Prolegomena
西洋古代 中世哲学史	藤 井	(Ⅲ、Ⅳ) 本年度は、アリストテレス以後プロチノスにいたるまでの古代末期の哲学を取扱う予定(受講者は拙著「哲学の誕生」を一読しておくこと。)
同	井上忠	教父哲学よりスコラ哲学にいたる。
芸術学 (美学・美術史)	沢 柳	(Ⅲ、Ⅳ) 前記講読 Text: Heinrich Wölfflin: Das Erklären von Kunst werken
哲学特講	岩 崎	フイヒテ・シェリング・ヘーゲルなどのいわゆるドイツ観念論哲学をカント哲学との関連において述べる。
東洋哲学史	岸 本	仏教を中心としつつインド、中国、日本における宗教思想の研究。
美学特講	谷 田	(Ⅲ、Ⅳ) 日本芸術論。(特に日本芸術の様式の問題) 読講。

史 学 科

科 目 名	担当教官	講 義 内 容
日本史学演習A	中 村 一 良	(Ⅳ) 文明開化期の歴史思想(テキスト 田口卯吉著 日本開化小史)
日本史特講A	同	(Ⅲ) 日本美術の社会史的考察 前期 近畿諸寺院の考察 後期 日本美術史の諸問題(テキスト 矢代幸雄著 世界における日本美術の位置)
日本史概説	赤木志	(Ⅰ) テキスト使用 日本史概説講義
史料講読	同	(Ⅱ) プリント使用 法制史料其他史料数種の講読

日本史演習	同	(Ⅲ) 令集解をテキストとして古代政治、社会の研究。
日本史特講B	同	平安文化史の諸問題。
古文書学(後期)	同	(Ⅲ) 古文書学の概説と古文書一部の講読。
日本史特講	大石	(Ⅳ、Ⅲ) (寄生地主的土地所有の成立とその展開) 後期封建社会の土地所有の基本形態を確定し、そのなかから如何にして寄生地主的土地所有が発生し、それが封建社会内での地位を確定してゆくかを明にし、併せてその展開と明治維新の関係を論ずる。近世地方史料の取扱演習を含む。
東洋史史料講読	市古	(Ⅱ) 主要な史籍の解題およびその講読。
東洋史特殊講義A	同	清末民国初年の農民暴動。
東洋史学演習A	同	辛亥革命。
東洋史概説	和田	東洋諸民族社会の発達。
東洋史特講B	同	東南アジア史。
東洋史学演習B	同	宋代社会経済史料。
東洋史特講	荒	(Ⅲ、Ⅳ) 近代インドの社会と政治の変貌。
西洋史概説	尾鍋	(Ⅰ) テキストは 尾鍋「西洋史概説、上巻」。演習を加える。
西洋史史料講読	同	(Ⅱ) 後期。テキストは Kirn, Einführung in die Geschichtswissenschaft
西洋史特講(A)	同	(Ⅲ、Ⅳ) 32年度よりひきつづく。世界史の理論。演習を加える。

西洋史演習(A)	同	(Ⅲ、Ⅳ) 主として外国雑誌論文研究および卒業論文製作指導。
史学概論	中村英	(Ⅲ) 史学史・歴史観・歴史学研究法等の諸問題について講述し、演習をまじえる。
西洋史特講B	同	(Ⅳ) イギリス憲政史および現代史の諸問題について講述する。
西洋史演習B	同	(Ⅲ) R. H. Tawney: The Agrarian Problem in the Sixteenth Century をテキストとして、主としてイギリス経済史の諸問題について研究する。
西洋史料講読	同	(Ⅱ) E. Lipson: The Growth of English Society をテキストとし、さらにイギリス関係史料の講読を行う。(前期のみ)
世界近代史	有賀	

地理学科		
科目名	担当教官	講義内容
政治地理学	飯本	(Ⅲ、Ⅵ) 国家の政治的境界、政治的位置等の国家の形象観察、国家活動と自然景域並に文化景域との関係。
ヨーロッパ地理	同	(Ⅱ、Ⅲ) 文化景域並に自然景域的観点よりヨーロッパの地域構造を説述する。
地理学演習Ⅲ	同	(Ⅲ、Ⅳ) 予め与えられた地理学的課題を繞つて関係学生全員にてディスカッションする。
歴史地理	同	(専) 主としてヨーロッパ大陸についての歴史地理学的考察。
気候学	松井	(Ⅰ、Ⅱ) 気候学の簡単な基礎知識と世界の気候地域。
日本地誌Ⅱ	同	(Ⅱ、Ⅲ) 日本の農業地域。

交通地理学	同	(Ⅲ、Ⅳ) 地域構成要素としての交通。
地理学演習 (独書講読)	同	(Ⅲ、Ⅳ) E. Otremba: Die deutsche Agrarlandschaft, 1956.
自然地理学実験	松井 浅海	(Ⅲ) 地形、土壌、気候などの野外調査と室内実験、分布図の作業など。
人種民族地理学	能	人種及び民族の本質、それらの地理学的意義。
地理学演習Ⅰ	同	英書講読。
集落地理学	同	集落の意義、形態など地理学的考察。
外国地誌Ⅰ	同	亜濠地誌。
地形学	浅海	各種の地形輪廻、地形図及びフィールドにおける地形の解釈。
土壌学	同	(Ⅱ、Ⅲ) 土壌の生成と分類及び分布について。
地図学演習	同	地図投影法、簡易測量、地形計測、分布図の作成。
地質学	赤木健	(Ⅰ) 地球を構成する岩石に就いて(火成岩、堆積岩及変成岩)地質作用に就いて、地史の概要等。
岩石鉱物学	同	(Ⅱ) 鉱物の鑑定及実験、結晶の話、岩石の鑑定に就いて。
層位学	同	(Ⅱ) 主として地層生成に関するもの。
陸水海洋学	吉川	海底地質学と南極大陸の氷、河川と洪水。
地理学特講	同	(Ⅲ) 第4紀における地形の諸問題。

都市地理 木内 (Ⅲ) 都市の発達、都市と農村、人口の大都市集中、大都市の構造

文学科 国文学・国語学専攻

科目名	担当教官	講義内容
日本文学史 (上古中古)	次田	(Ⅰ) 大和時代より、平安時代までの文学史の概説。前期は大和時代、後期は平安時代を講義する予定。
国文学講義講読 (上古)	同	(Ⅱ) 万葉集の巻1から巻5までにわたって、講義講読の予定。
国文学演習 (上古)	同	(Ⅲ) 記紀の歌謡についての演習。テキストは「記紀歌謡集」(岩波文庫)が便利である。
国文学特講 (上古)	同	(Ⅳ) 前年度につづいて、古事記の出雲系ならびに筑紫系神話を考察する予定。
近古日本文学史	井本	(Ⅲ) 近古時代の国文学の史的展開の概説。
国文学演習 (近古・近世)	同	(Ⅱ) テキストは東関紀行。
国文学講義講読	同	(Ⅰ) 俳諧についての講義と講読。
中古文学 講義・講読	関根	(Ⅱ) 源氏物語若菜上のつづき。

中古文学演習	関根	(Ⅲ) 紫式部日記つづき。
中古文学特講	同	(Ⅳ) 平安時代の和歌、主として私家集について。
日本文学史 (近世)	堤	(Ⅳ) 近世日本文学史を、とくに戯曲、小説を中心に考察する。
国文学講義講読 (近世)	同	(Ⅰ) テキストとして近世小説類を用い講読を行う。
国文学演習 (近世)	同	(Ⅲ) 西鶴の「独吟自註自韻」を取上げる。
国文学特殊講義	同	(Ⅳ) 浮世草子論。昨年度の講義の継続である。
近代日本文学史	高田	(Ⅲ) 文芸思潮に重点をおいて、近代日本文学の流れをたどる。その間に今日のわれわれに重要な諸問題にであらうはずである。
国文学特講	成瀬	
国語法概説	松村	(Ⅲ) 品詞論・文章論の概説。
国語学史	同	(Ⅲ) 音韻・活用・てにをは等の研究史。
国語学特講 (その二)	同	(Ⅳ) 明治初期の東京語。
国語学演習 (その二)	同	(Ⅱ) テキスト——能狂言(虎清本)。
国語学概論	江湖山	(Ⅰ) 国語についての概説。

国語史概説	同	(Ⅱ) 国語史についての概説。
国語学演習 (その一)	同	(Ⅲ) テキスト——古事記。
国語学特講 (その一)	同	(Ⅳ) 国語学の諸問題の中から。
国文学特講	阪本	(Ⅲ) 日本近代文学の中に発生した近代詩の様相とその変遷を考察する。但し本年は島崎藤村以後の明治詩壇を考究する。

文 学 科 中国文学専攻			
科 目 名	担当教官	講 義 内 容	
中国文学講読 (旧)	網	(Ⅰ) 唐詩講読——唐詩選を使用する。	
中国文学史	同	(ⅠⅡ) 中国文学史——宋以後	
中国文学講読 (旧)	同	(Ⅱ) 文選講読——陶淵明、謝雷運を主とする。	
中国文学講読 (旧)	同	(Ⅲ) 楚辭講読——屈原を主とする。	
中国文学特講 (旧)	同	(Ⅲ) 中国文学思想史。	
中国文学演習 (旧)	同	(Ⅳ) 演習——詩経。	

中国語学概説	頼	(I) 「倉石中国語教本」巻 4
中国語学講読	同	(II) 老舍「竜鬚溝」(修正本)
中国文学特講 (新)	同	(II) 中国語学研究会「中国語概論」
中国語学講読	同	(III) 屈原「離騷」(江南書院版)
中国語学演習	同	(IV) 中古訓古学資料(プリント使用)
中国語教授法	中山	(III) 中国語学研究会「中国語研究史」
中国文学講読 (新)	同	(I) 現代白話文をテキストとして、その読解につめる。
中国語学講読	同	(I) 中国語の入門、発音、会話、語法を中心とする。
中国文学講読 (新)	同	(II) 清朝章回小説紅樓夢・儒林外史の味読
中国文学特講 (新)	同	(III) 明曲の研究
中国哲学概論	小林信	(III) 中国人の基本的な思考形式である陰陽五行の思想を中心として、その論理の展開や、思想の構成などを出来るだけ解説してみようとする。
中国文学演習	黎波	(III) 作品の精読と、速読みを交互に行う。
中国文学特講	同	(IV) 短篇を選出して時間外に読んで貰い、時間中は質問の点に答えた中国語で合評する。

文 学 科 英文学・英語学専攻		
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
英文学演習	鍋島	(I) エリザベス朝から19世紀ロマン主義時代までのイギリス抒情詩の解説と講読。用書。F. T. Palgrave: The Golden Treasury (大山敏子編)。篠崎書林。(定価 200円)
英文学特講	同	(IV) 文学批評の原理と方法。参考書。T. S. Eliot: Essays (矢野木積註訳。研究社。定価 350円) I. A. Richards: Science and Poetry (橘忠衛編註) 英宝社。定価 130円位。
英語学史 (前期)	同	(II) アングロ・サクソン時代から17世紀末まで。用書。イギリス文学史(朱牟田、土方、鍋島、中橋共著) 東大出版会。定価 280円。
英作文演習	滝沢	(I) 英文科第一学年生のための英作文の初歩
英文学演習 (英国近代劇)	同	(II) Galsworthy の戯曲研究
英語学特講	同	(専) Marlowe の研究
英文学概論	木原	(専) Henry Bradley: The Making of English (成美堂) ¥ 250 を使用
英語学特講	同	(専) Jespersen: Essentials of English Grammar Chap. XVIII より
英文法概論	同	(専) 石橋幸太郎: A New College English Grammar (成美堂) ¥ 180

英文学	伊吹	(IV) Henry James の小説研究。“The Portrait of a Lady” の講読をあわせ行う。
“	同	(III) E. M. Forster の小説研究。“A Passage to India” の講読
“	同	(専) Graham Greene 研究。
英文学史 II	西崎	(III) 英文科生のため、英文学史後期。十七世紀より現代まで。学生に研究発表をさせる。
英文学演習	同	(III) 講読。Daniel Defoe: “Moll Flanders”
英文学演習	同	(II) 講読。Henry James: The Portrait of a Lady
英語音声学	宮田	(I) 英語発音の理論と実際。小栗敬三著「英語発音の知識」(篠崎書林)を利用する。テープレコーダーも利用する。
英作文演習	木村	(II) 日本文の小品随筆などの翻訳。原文は学生と合議の上決定。
英文学演習	中村	(I) Short Stories by Katherine Mansfield (研究社)
英文学特講	野島	(III) ‘Revenge Play’. Kyd の ‘Spanish Tragedy’ を中心にエリザ朝復讐劇の推移発展をみる。
英会話演習	トムソン	(I、II) それぞれ実施。
英作文演習	同	(III、IV) Clear Writing, Leo Kirschbaum, Henry Holt and Co., N. Y., 1950
英文学演習	同	(IV) 題目。A Survey of 20th Century American Literature

教育学科		教育学専攻
科目名	担当教官	講義内容
教育心理学概論	波多野	教育学専攻者のための教育心理学で、発達心理、学習心理、臨床心理および教師と生徒との社会心理の概要をのべる。講義を主体とするが一年に五回のレポートを提出させる。
発達心理学演習	同	教育心理学専攻者のうち、特にフランス語を履修したもののために設けられたもので、Education et Caractère をテキストとしつゝフランス性格心理学とそれの教育への適用を研究する。
心理学演習	同	ドイツで編集したソ同盟心理論文集Gegenwartigen Situation der psychologie をテキストとし、パウロフ段階以後の状況を西欧アメリカを対比しつゝ研究する。
視聴覚教育の心理学	阪本	(III、IV) 視聴覚教育の方法を考究し、映画、放送者のマス・メディアについて概括して、デモンストレーションを行う。
心理学演習	同	(II) De Kieffer and Cochran: Manual of Audio-Visual Techniques 及び雑誌講読。
教育児童	同	(III) 児童文化の本質、児童文学の変遷史及び各種の児童文化財を考察する。(対象教育学科及児童学科)
教育哲学	岩崎	(II、III) 実際教育学と教育科学、社会体制と人間形成、現代教育の諸問題。
同特講	同	(III、IV) デイルタイ派の教育理論。
西洋教育史	同	(II) 教育史研究方法論、近代教育の形態と思想の変遷。

同演習	岩崎	(1)(Ⅲ、Ⅳ)Olbrich, H. O: Die Geschichte der Pädagogik, 5 Aufl. 1954. (2)Frose, L.: Ideengeschichtliche Triebkräfte der russischen und Sowjetischen Pädagogik 1956
教育学特講	林健	(Ⅱ) 造形教育論(造形の意義・児童画の発達・価値・見方・子どもの造形における発想と材料体験)
発達心理学概論	小口	(Ⅲ) ①発達 ②発達の原理 ③発達過程
学習心理学の諸問題	同	(Ⅲ、Ⅳ) 転移理論の検討。
教育測定学概論	同	(Ⅲ) 観察法・テスト法などの他に心理学実験法もふくめる。
教育測定学実験演習	同	(Ⅲ) 基礎的実験ならびに特殊実験。
社会心理学	同	(Ⅳ) 「自我」の分析。
青年心理学	内田	(Ⅱ、後) 心身発達と青年期の心理。
同	同	(Ⅲ、前) 自我形成過程面より観た青年心理。
実験実習	同	(Ⅲ、Ⅳ) 実験実習を通して青年期の心理的徴候を検討する。
教育社会学	周郷	(Ⅱ、Ⅲ) 社会の変化にともなう人間形成のメカニズムの変容と体制。教育社会学的方法の吟味。
同演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) B. Ghiselin (ed.) "Creative Process" 講読。
社会教育	同	(Ⅱ、Ⅲ) ユネスコの Fundamental Education。社会教育の現代的意味づけ、展開。

日本教育史	周郷	(Ⅰ、Ⅱ) 日本教育史の概観。
教育社会学特講	同	(Ⅲ、Ⅳ) 芸術教育。
教育行政要論	関野	社会的歴史的視点から戦前戦後の教育行政制度の性格の考察並に課題。
近代学校制度論	同	近代日本の学校制度(特に女子の高等教育)を社会的的政行見地から考察する
教育行財政	非常勤講師	未定
教育社会学特講(マス・コミュニケイション)	教授 A	未定
中国教育史	林	(Ⅲ、Ⅳ) 中国の教育のあり方を日本及び欧米のそれと比較検討しつつ古代から現代まで教育制度史を中心とし教育思想史を考察しながら講述する。
教育科学概論	古川	児童論、教師論、指導論の大要とその問題点を教育界の時事問題と並行して概説し、教育研究への興味をひきおこしたい。
教育方法	吉田	教育方法についての一般的理論。教授法および生活指導の基礎理論をふくむ。
教育方法演習	同	(Ⅲ、Ⅳ) 英語のテキストを用いて輪読。書名は未定。
教育方法特講	同	(Ⅲ、Ⅳ) わが国の教育方法の歴史的展開を明治以降についてとりあつかう。
社会教育特講	同	(Ⅲ、Ⅳ) とくに青年教育の問題について日本および外国の比較研究を行う。
教育課程論	宮田	(Ⅱ) カリキュラムの歴史と問題。

教育課程演習	宮田	(Ⅲ) Otto, H. J.: Social Education.
生活指導	同	(Ⅲ) 生活指導の実践記録による研究。
教育課程特講	同	(Ⅳ) 修身教科書の分析的研究。
教育実験実習	同	(Ⅲ、Ⅳ) 児童の道徳意識の分析(道徳副読本に対する児童の反応から)
図書館学	岡田温	(Ⅲ) 教育における図書館の意義を究明する。司書教諭資格認定の線に沿い、本年度は学校図書館通論、図書を選択、図書の整理を主とする。
小学校教材研究	月曜 前期 月曜 後期 (7.8時) 金曜 前期 金曜 後期 (7.8時)	加藤(算数・理科) 大橋(国語) 福田(音楽) 宮地(社会科) 林(図工) 富平(家庭科) 古江(体育)
(Ⅲ) 小学校の全教科(8教科)について、おのおのの教科の目標および指導の内容(教材・資料)と方法を研究する。		

教育学科		体育学専攻
科目名	担当教官	講義内容
体育学原論	森	(Ⅲ、Ⅳ) 体育とは何か、体育の目的、目標。体育の科学的基礎。
日本体育史	同	(Ⅱ) 日本における体育思想と体育の史実。
体育運動学(第1類)	同	(Ⅰ) 体育の概論と女子の体操を中心とする体育運動の理論。
体育運動各論(第1類)	同	(Ⅰ-Ⅳ) 学校体操(女子)の基礎的階級的技術指導。

体育管理及施設	森	(Ⅳ) 体育管理の意義、機能。学校における体育施設の内容。
女子体育論	戸倉	(Ⅲ) 女性一般の体育から幼児体育にまで論及する。
体育運動学	同	(Ⅰ) ダンスの史的考察とその本質論。
体育運動各論	同	(全) 学校ダンスの段階的指導。
体育学演習	林	(Ⅳ) C. L. Brownell: Foundations and Principles in Physical Education
西洋体育史	同	(Ⅱ) 西洋に於ける古代より近世までの体育思想とその史実。
体育史演習	林	(Ⅲ) A. D. Munrow: Physical Education in The United States of America
体育社会学(その一)	同	(Ⅲ、後) 教育社会学よりアプローチして講述する。
体育運動学	同	(Ⅱ、前) 女子の体育運動特にスポーツと遊戯及びレクリエーション理論について。
体育運動各論	同	(全) テニス型・ベースボール型の球技とシーズンスポーツの指導。
女子体育史	同	(Ⅳ、後) 女子体育事実の史的考察。
体育運動各論(第2類)	石山	(全) 籠球型、蹴球型球技の沿革、基礎的技術及びゲームの一般的運び方。
体育心理学	同	(Ⅲ) 体育心理学の成立とその課題、対象。
体育心理学実験	同	(Ⅲ) 基礎的実験を行い、実験の操作、実験過程の解察及び結果の処理について練習する。
体育心理学演習	同	(Ⅲ) Tohn, D. Lawther: Psychology of Coaching

体育社会学 (第二類)	石山	(Ⅲ) 教育社会学よりアプローチして講述する。
体育評価	同	(Ⅲ) 体育における測定、評価の意義、目的、対象及び手順。
体育運動学	同	(Ⅱ) 女子スポーツの基本的問題。
体育運動各論 (第二類)	平野	() バレーボールの理論及び実際指導。
体育運動各論 (第二類)	梅田	(Ⅲ) 競泳法の理論と国際水泳競技について。
同上	三柳	(Ⅲ) 陸上競技法。特にトラック種目の理論と実技指導。
健康教育概論	渡辺	(Ⅱ) 生理衛生の一般的な理論、生命現象と環境。
衛生学	同	(Ⅱ、Ⅲ) 個人衛生及環境衛生。
衛生学実験	同	(Ⅲ) 環境衛生学に関する実験と測定の術式を実習する。
公衆衛生学Ⅰ	同	(Ⅲ) 本年度は衛生統計、人口静態、人口動態を主として講述し、更に伝染病学に及ぶ。
公衆衛生学Ⅱ	同	(Ⅲ) 主として学校保健について講述し、衛生行政、健康管理、社会保障の現状について。
公衆衛生学演習	同	(Ⅲ) 公衆衛生学に於ける調査、実験計画法及び推計学の演習。
体育特殊講義	同	(Ⅳ) 本年は特に条件反射について講義する。
女子身体論	小野	(Ⅱ) 女子身体の特徴を説き、体育と職業適性に及ぶ。

医学概論	小野	(Ⅱ) 医学一般を講義し、実生活と体育に於ける応用を講述する。
解剖学	同	(Ⅱ) 人体の系統解剖学、組織学を述べ、更に運動解剖学に及ぶ。
生理学Ⅰ	同	(Ⅱ) 一般生理及び植物性官能の生理。
生理学Ⅱ	同	(Ⅱ) 動物官能。
体育生理学	同	(Ⅱ) Karpovich: Physiology of muscular Activity に準拠する。
生理学実験	同	(Ⅲ) 生理学的実験測定法の術式を習得する。
発育論	同	(Ⅱ) 胎生学及び生後の形能機能の発達過程について。
運動障害 救急看護	同	(Ⅱ) 一般的講述と共に病理学を講じ、キャンプ、登山などを行つて実際指導を行う。
栄養学概論	同	(Ⅱ) 一般栄養学概論の講述。
声楽	藺田	(Ⅰ) 基礎発声法研究。コールユーブンゲン、コールシユール・ダノーゼル等による基礎唱法(ソルフエージュ)発声法
音楽理論	柴田	(Ⅰ) 音楽1年の音楽概論を前期のみ合併で行う。音楽理論の基礎。
ピアノ	守田 遠見	(Ⅰ) 基礎奏法および伴奏法の研究。

教育学科 音楽教育学専攻

科目名	担当教官	講義内容
-----	------	------

指揮法	藺田	IV) 器楽及声楽(合唱)総譜演奏法、合唱及管弦楽指揮法及び両者の関係、(各種の伴奏を附したる合唱指揮法。
連合合唱	同	(II、III、IV) 古典、浪漫、近代、現代に互る合唱曲(主として女声合唱曲)によるアンサンブルの技巧研究。
合唱	同	(III、IV) 合唱に於ける各国語の発声法及び発語法、小アンサンブルの研究、合唱曲編曲法、合唱編成法、及び合唱指導法。
声楽	同	(I) 基礎的発声法研究 コールユーブンゲン、コールシユール、ダノーゼル等による基礎唱法(ソルフエージュ)発音法、発語法。
声楽(独唱)	同	(II、III、IV) 発声法及各国語による発語法、古典、浪漫、近代、現代歌曲及アリア唱法
"	小泉	(II、III、IV) 発声法及各国語による発語法、古典、浪漫、近代、現代歌曲及アリア唱法
合唱	同	(II) 発声法及発語法、重唱及小合唱並びにその指導法。
ピアノ	守田見	(I) 基礎奏法の研究。
"	同	(II) 古典派音楽の研究。
"	同	(III) 湯漫派音楽の研究。
"	同	(IV) 近代及現代音楽の研究。
和声法 I	柴田	(II、III) 古典派からロマン派に至る和声法の概説と実習(鍵盤上の実習を含む)
同 II	同	(IV) ロマン派以後近代に至る和声法(同上)

対位法	柴田	(IV) 16世紀多声楽(パレストリーナ様式の)対位法の概説と実習。
音楽学概論	同	(I) 音楽理論、楽器学初歩、音楽学序説。
作曲学	同	(III) 作曲様式の研究(楽曲アナリゼを含む)
音楽学演習	同	(III、IV) 音楽学に関する外国文献の抄読。
音楽形式学	同	(III) 各時代の基礎形式と応用形式を創作実習を課しつつ行う。
音楽史	土田	(II) グレゴリオから現代にいたる西洋音楽通史
音楽史特講	同	(III) バツハを中心としてバロツコ、古典の解明
音楽美学	同	(III、IV) 音楽の特殊性について。
東洋音楽教育史 並に西洋音楽教育史	真篠	(I、II) 東洋および欧米における音楽教育の変遷と現状について。
音楽教育法	同	(III) 音楽教育の意義・目標・指導計画・指導法・評価・教材等について。
音楽心理学	同	(III、IV) 児童生徒の音楽性の発達について。
音楽教育学演習	同	(IV) James L. Mursell: Human Values in Music Education
文 教 育 学 部 共 通		
科目名	担当教官	講 義 内 容
△社会関係科目		

法 学	井上茂	
攻 治 学	同	国際政治学
経 済 学	安 藤	(Ⅲ) 資本主義の発達特に日本資本主義発達史 (第一次世界大戦より太平洋戦争直後の時期迄に重点を置く)並びに日本資本主義の構造について述べる。
社 会 学	大 橋	(Ⅲ、Ⅳ) リーダーシップの現象を中心として、集団と個人との機能的関連を考察してゆく。
社 会 調 査	同	(Ⅲ、Ⅳ) 社会調査の理論および技術をゼミナール形式において修得させる。実習も行う予定。なお、教育調査も合せて取扱う。
△学部共通科目		
ラテン語中級	加 藤	テキスト・Vergilius, Aeneis: Liber I. (岩波書店刊もある。他の版でもよい)
ギリシア語中級	同	テキスト・Novum Testamentum Graece (Nestle 版がよい。その他でもよい)

理 学 部 基礎教育科目		
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
基礎数学 I	西	(Ⅰ) 実数、函数及びその連続、極限、微分、積分等の諸概念、併せて線型代数学とそれの応用としての解析幾何学の初歩。
同 II	渋谷松	(Ⅱ) 解析幾何と代数。福原他著「微積分学」共立出版を使用。

基礎物理学 I	阿 阪	(Ⅰ) 質点、剛体及び連続体の力学、振動、波動、音及び熱に関する基本的事項の解説。微積分の初歩の知識を必要とする。
基礎物理学 II	坂 上	(Ⅰ Ⅱ) 電磁気、光、原子、分子の物理学に関する基本的事項の解説。
基礎化学 I	内 海	(Ⅰ) 化学の系統を元素の性格に従って学ぶ。内海著「元素序説図表編」(共立出版)(無機化学 I、有機化学 I、物理化学 I 等の専門科目履習には本科目を履修しておくことが望ましい。)
基礎化学 II	立 花	(Ⅱ前) 化学熱力学(古典)の講義、テキスト 小泉正夫、化学平衡(共立全書)
基礎化学 II	林	(Ⅱ後) 後期に於て有機化学を概説する。
基礎生物学 I (動物学)	荒 木	(Ⅰ後) 動物を中心にして、生物学の一般を紹介する。
基礎生物学 I (植物学)	塚 本	(Ⅰ前) 基本的な物質代謝を中心とする。
基礎生物学 II (動物学)	荒 木	(Ⅱ後) 生物学の一断面。
基礎生物学 II (植物学)	大 槻	(Ⅱ後) 微生物に関する基礎的知識を与える。

数 学 科		
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
実数論及び演習	西	(Ⅰ) 解析学の基礎となるべき実数の概念の明確化を目的とする。

代数学 I 演習	稲葉	(I) 古典代数学の基本的事項、整数論の初歩、複素数、多項式、方程式、行列式と行列とその演習。
微積分学 I 演習	松田	(I) 一変数の微分、積分とその演習。
微積分学 II 演習	伊関	(II) 微積分 I に接続する。 (主として多変数の微積分とその演習。)
代数学 II 演習	西	(II) 抽象代数学初歩。バーコフ・マツクレーン著 A. Survey of Modern Algebra を使用。
解析幾何学 演習	立花	(II) 解析幾何、線型代数。
微分方程式論 I 演習	波谷 松田	(III IV) 求積法、微分方程式論の初歩とその演習。
函数論 演習	亀谷	(III IV) 解析函数の一般論および初等函数への応用を述べる。
位相空間論 演習	亀谷	(II 後) 位相空間論初歩の講義と演習。
代数幾何学	稲葉	(III IV、後) 代数幾何学の初歩的部分。
微分幾何学	立花	(III IV、前) 空間曲線及び曲面上の幾何を古典的方法で扱ふ。
確率論	国沢	(III IV、後) 確率の導入、確率分布、平均値、大数の法則、中心極限定理、確率過程論。
数理統計学	魚返	(III IV、後) 数理統計学の初等的解説。

統計学	魚返	(I 前) 初等的な統計的解析についてのべる。
数学特殊講義		(III IV、前)
物理学科		※のついた科目の履修には講義内容の欄に ※をつけてある科目を修得しておくこと。
科目名	担当教官	講義内容
力学第一	下瀬	(II) 質点、質点系、剛体、解析力学。
※力学第二	阿阪	(III 前) 連続物体の力学、特に流体力学※[力学 I]。
※流体力学特論	同	(III 後) 最近の流体力学の発展、特に境界層、乱流及び高速気流について解説※[力学 II]。
電磁気学及び光学第一	中村	(II 後) 電磁気に関する基本的な事項とその理論。
電磁気学及び光学第一	橋爪	(III 前) 複雑な電磁現象をなるべく少い立脚点から取扱ひ、他の講義の基礎を与える。力学及びベクトルの理解が望ましい。
※電磁気学及び光学第二	中村	(III 前) 幾何光学、物理光学、光学機械。[※電磁気及び光学 I]
※量子力学	大野	(III 後 IV 前) 粒子と波動。不確定性原理。シュレーディンガー方程式。摂動論。※[力学 I。電磁気学及び光学 I]
原子物理学	小川	(III 前) 黒体輻射。前期量子論。原子スペクトル。原子の衝突。
原子核物理学	藤田	(IV 前) 原子核の基本的性質。核反応。中性子物理。
原子核特論	小川	(IV 後) 主として原子核実験について講義する。

物性論		(ⅢⅣ、後)
地球物理学	井上	(ⅢⅥ) 地球発生論、地球の形、内部構造、地震、火山現象、造山作用。
熱学及び熱力学	橋爪	(Ⅲ後) 熱力学の諸原理に重点を置いて説明する。
※気体論統計力学	大野	(Ⅳ前) 古典及び量子統計力学につき講義する。※〔熱学及熱力学〕
相対性理論	下瀬	(ⅢⅣ、前) 特殊相対性理論及び電子論の概要。
物理数学	橋爪	(Ⅱ後) 複素回路積分、Laplace 変換、Fourier 級数等。
物理数学	下瀬	(Ⅲ前) 常微分方程式及びその境界値問題、Green 函数、固有函数による任意函数展開。
※数理物理学	同	(Ⅲ後) 偏微分方程式及びその初期値問題、境界値問題、変分原理。 ※〔物理数学〕
物理実験学	坂上	(Ⅱ後、Ⅲ前) 実験結果整理法、基礎量の測定法、基礎的装置使用法、実験操作工作法の基礎。
電子工学	小川	(Ⅲ後) 電子管(主として真空管)及びその回路の基礎。
物理学演習Ⅰ	下瀬	(Ⅰ) 物理学の学習に必要な微積分の演習。
物理学演習Ⅱ	橋爪	(Ⅱ) 物理数学の講義に関連した演習。
物理学演習Ⅲ	下瀬	(Ⅱ) 力学Ⅰに並行して、力学の諸問題を解く能力を養成する。
量子力学演習	大野	(Ⅲ後、Ⅳ前) 量子力学の講義と並行して問題を考究する。

実験工作法	小川	(Ⅰ後) 物理実験に必要な種々の工作や基礎的な実習器具について説明し かつ実習する。
物理実験第一	坂上	(Ⅱ) 基礎量の測定法、基礎的機械の使用法を習熟体得せしめると共に、実 験結果の取扱法及び基礎的な実験操作法の練習。
物理実験第二	阿中 阪村	(Ⅲ) 物理実験Ⅰを終了せる学生に対してさらに進んだ実験技術を修得せし める。
物理学輪講	下瀬 橋爪 大野	(Ⅲ)
特別研究	物理学 全教官	(Ⅳ) 各教官の研究室に別れて行う。
化 学 科		※のついた科目の履修は講義内容の欄に ※をつけてある科目を修得しておくこと
科目名	担当教官	講義内容
基本化学実験	岡嶋	(Ⅰ) 化学の基本となる実験。外国語のテキストを用いる。
※物理化学Ⅰ	立花	(Ⅱ) 古典的取扱いによる化学平衡および反応速度論。テキスト：小泉正夫 化学平衡および広田鋼蔵：反応速度。(二つとも共立全書) ※〔基礎化学Ⅰ〕
※分析化学Ⅰ	中西	(Ⅱ前) 化学分析に必要な基礎的事項。定性分析。 ※〔基礎化学Ⅰ〕
※有機化学Ⅰ	林	(Ⅱ) 有機化学総論および鎖状有機化合物に関する講義(赤堀、奥村著「解 説有機化学」使用) ※〔基礎化学Ⅰ〕

※生物化学 I	阿武	(III) 炭水化物、脂質、蛋白質及び核酸の化学。〔※基礎化学 I、II又は有機化学 I〕
無機分析化学実験	内海 中西	(II) 無機物質を扱う定性分析、容量分析、重量分析、比色分析、電気分析。
物理化学実験	立花 和田	(III前) 物理化学実験の基礎技術、工作技術、エレクトロニクスおよび計算演習。テキスト；鯉島実三郎：物理化学実験法。
有機化学実験	林 塩田	(III後) 有機化合物合成の基礎的操作と定性分析。
生物化学実験	阿武	(IV前) 炭水化物、蛋白質、脂質および酵素についての基礎的実験。
化学演習	化学科 全教官	(IV) 外国語で発表された研究論文の解説と討論。
化学特別研究	同	(IV後) 物理化学、無機分析化学、有機化学、生物化学の研究室において特定のテーマについて行う研究実験。
※分析化学 II	中西	(II後) 定量分析法について。 ※〔分析化学 I〕
※物理化学 II	和田	(III) 統計熱力学を基礎とした分子の集合系の物理化学。 ※〔物理化学 I〕
※無機化学 II	内海	(III) 無機化学 I に続く元素各論と原子理論、結合論及び物性論の大意。 ※〔無機化学 I〕
※有機化学 II	塩田	(III) 環式化合物の概論。 ※〔有機化学 I〕
※生物化学 II	成田	(III 後) ホルモン、ビタミンおよび酵素の化学。 ※〔生物化学 I〕
構造化学	児島	(III前) 「分子構造論入門」(丸善)を教科書としこれを中心として論述する。

放射化学	斎藤	(IIIIV、後) 放射能および原子核反応の化学的考察および放射性核種の分離、生成ならびにその応用の原理を主とし、なお放射線化学の概説を行なう。
機器分析	中西	(III後) 計測機器を用いる化学分析法。主として光学的方法と電気的方法について。
応用化学	祖父江	(III後) 化学工業緒論、その特性、他産業との関連、有機及び無機化学工業。
生物化学特論	安藤	(専 IV、前) 蛋白質の化学構造と特性。
有機化学演習	林	(II) Fieser 著 Text book of Organic Chemistry (丸善版)を用いる。
天然色素化学	黒田	(III) 一般有機色素の概要、天然色素の分類、性質、構造、研究法、用途。
有機化学実験法	塩田	(III前) 畑・渡辺著「基礎有機化学実験」(丸善)による。
生物化学実験法	阿武	(III前) 生物化学実験に必要な基本的操作法の概説。

生物学科 動物学専攻

科目名	担当教官	講義内容
動物系統学	久米	(II) 動物の種類を(主として構造発生を基礎にして)系統的に比較する。
同 実験	同	(II) 動物の代表的な種類についての解剖実習。
動物細胞組織学	団	(III前) 動物体を構成する細胞及び各組織について、発生学的な見地から形態的に述べる。
同 実験	同	(III前) こゝで実験の技術をあわせて習得する。
実験形態学	久米	(III後) 動物の形態を観察だけでなく、実験法によつて、その発現を因果的に説明。

動物生理学	柳田	(Ⅲ) 一般生理学的な基本問題を顧慮しつつ、下等動物を中心に比較生理を論述する。
同 実 験	同	(Ⅲ) 毎週グループに一題づゝ簡単な実験を課し、生理学的な基本手技の心得を養う。
動物生理化学	荒木	(Ⅲ 後) 生体を化学反応の場としてみた生理学的一面を、主として酵素及び酵素系につき考察する。
同 実 験	同	(Ⅳ 前) 生体を構成するいくつかの成分と酵素につき簡単な定性と定量の実験。(臨海実験所)
動物学臨海実験	久米	(Ⅱ、Ⅲ) 動物の種類、形態、発生などを観察実験。動物系統学の知識必要。
生物学特別研究 (動物学)	各教官	(Ⅳ) 学生各自が動物学に関する特定の主題を選び専門的研究の实地を体得。
動物生理学 臨海実習	柳田	(Ⅲ 前) 三崎臨海実験所に三日間滞在、生活材料を用いて小さな観察。
生 物 学 セ ミ ナ リ ー (動物学)	久米 岡田 柳田 荒木	(Ⅲ) 教官、学生が合して、各自動物学に関する選ばれた論文を紹介し、あとでそれについて全員で論議をおこなう。
動物生態学	堀越	(Ⅲ 前) 緒論、環境、個生態学、群衆生態学、生態地理学、生態研究調査法。
動物心理学	丘	(Ⅲ 後) 動物心理学の目的、対象、動物の行動の分類、研究方法および研究事実を概説する。

進 化 学	八 杉	(Ⅳ 前) 進化論の歴史、進化を立証する事実、進化過程の法則、進化の要因論、とくに現代の自然淘汰説とその検討、立証事実と過程の法則と要因論との相互関係、生物の系統についての議論、人類の進化とその特殊性。
生 物 学 科 植物学専攻		
科 目 名	担当教官	講 義 内 容
植物外部形態学	津山	(Ⅰ) 茎、葉、根およびこれらから導かれた植物の諸機関の構造、配列、分比を比較検討する。
同 実 験	同	(Ⅰ) 同上の実験。
植物組織学	井上	(Ⅱ) 管束植物の内部構造について基礎的な事項をのべる。
同 実 験	津山	(Ⅱ) 講義事項を実際について観察する。
植物細胞学	太田	(Ⅱ Ⅲ) 植物体の構成単位である細胞の構造と機能の関連について。
同 実 験	同	(Ⅱ 後、Ⅲ 前) 同上の実験。
植物生化学	大槻	(Ⅲ 前) 植物細胞の化学組成、酵素、炭水化物とその生体合成、蛋白質とその生体合成等。
同 実 験	同	(Ⅲ 前) 同上の実験。
植物生理学Ⅰ	同	(Ⅱ 前) 植物の形態及び位置交換の生理即ち滲透圧現象、生長、運動。
同 実 験	同	(Ⅱ 前) 同上の実験。
植物生理学Ⅰ	塚本	(Ⅲ 前) 適当な酵素化学の教科書をもとにして輪講の形式で行う。

同 実 験	塚 本	(Ⅲ後) 同上実験。
植物生態学	門 司	(Ⅲ) 生態学史、環境条件、生活形、生態地理学、植物群落、植物群落の物質生産、耐陰性、層、遷移。
植物臨海実習	津 山	(Ⅲ) 主として海藻類を材料として、分類、外部形態、組織細胞の実習。
植物分類学	同	(Ⅱ前) 単細胞から高等植物に至る各植物群の系統的類縁を明らかにし、進化のあとをたどる。
微生物学	大 槻	(Ⅱ) 微生物学一般について講議する。培養、種類の鑑別、代謝生理。
同 実 験	同	(Ⅱ後) 同上実験。
植物生理学Ⅱ	塚 本	(Ⅲ後) 植物生理学Ⅰ及び同実験の続きを行う。
同 実 験	同	(Ⅳ前) 同上実験。
植物野外実習	津 山	(Ⅰ～Ⅳ) 日帰り又は、2～3泊の旅行をなしつゝ、分類、分布、外部形態等の実習。

生物学科共通 (遺伝学)

科 目 名	担当教官	講 義 内 容
遺伝学総論	新 関	(Ⅱ後、Ⅲ前) 遺伝の現象と、理論の基礎的なものの説明。
同 実 験	同	(Ⅲ) 同上実験で染色体観察法、交雑技術など。
遺伝学各論	岡	(Ⅳ前) 遺伝に関する諸問題の基礎的なものと尖端的なもの。

同 実 験	岡	(Ⅳ前) 同上実験。
細胞遺伝学		(Ⅲ後)
人類遺伝学	大 倉	(Ⅲ後) 人類における遺伝の理論とその応用を実例について解説する。
優 生 学	岡	(Ⅳ前) 人間における遺伝とその関連における諸問題、特に民族衛生学。
育種学(動物)	同	(Ⅲ前) 品種改良に関する諸問題。
同 (植物)		(Ⅲ後)
園 芸 学	浅 山	花卉、蔬菜、果樹の栽培について実際と理論を学び、その利用を考究する。

理学部共通科目

科 目 名	担当教官	講 義 内 容
一般物理実験	小 川	(Ⅱ前) 基礎的な実験法を練習体得せしめる。(医学歯学進学志望者のため)
気 象 学	佃	(Ⅲ Ⅳ) 気象学に関する基礎的概念と気象現象の解説並に日本の動気候学的検討。
地球物理学	井 上	(Ⅲ Ⅳ) 地球発生論、地球の形、内部構造、地震、火山現象、造山作用。
基本化学実験	岡 嶋	(Ⅱ前) 化学実験の基本操作を練習する。(化学科参照)
生物学実験		(Ⅱ) 医学進学希望者は生物学科の実験の部分を参照。
一般数学Ⅱ		(Ⅱ) 基礎数学Ⅱを参照。

一般物理学	橋小荒大 瓜川木槻	基礎物理学Ⅱを参照。
一般生物学		基礎生物学Ⅱを参照。
家政学部 児童学科		
科目名	担当教官	講義内容
児童学演習	松村	児童学の基礎的な諸問題に関する研究、討議。(テキスト使用)
精神検査第二	同	性格研究法(主としてプロジェクト、テクニク)を中心におこなう。
児童生活指導	同	福祉心理、生活指導の原理と技術に関する諸問題をあつかう。
精神衛生	同	適用の適制、自己調整、カンセリングの技術などに関する諸問題をあつかう。
臨床心理学	同	臨床心理学の諸問題をRole. Play. 心理劇などにより、究明する。
児童心理学	水原	児童心理学全般にわたって基礎的な諸事実を概観する。
児童福祉	同	児童福祉の諸問題を児童心理、発達に関連させて解説する。
児童心理学 実験演習	同	児童心理学の各分野の基礎的な研究法を実習する。
児童生活指導	同	児童生活指導の諸問題を概説し生活指導上の技術を検討する。

児童心理学演習	同	児童心理学の実験的研究についての外国文献の講読。
児童福祉	辻村	日本の児童保障の歴史、殊に近代の保障対策史を概観した上で、現行の「児童福祉法」の内容の研究及びその実際の見学等を行う。
幼稚園実習	及川	幼児の幼稚園生活の実際観察、幼児指導の実際。
保育技術	同	保育内容の技術的指導。
幼児教育	同	幼児教育概論、幼児教育の特殊性と基本的問題。
小児医学第一 (発育・生理論)	平井	小児身心の発達、発育、生理及びそれらに及ぼす各種の影響について検討する。
小児医学第二 (養護理論及び 学校保健)	同	小児期における養護、健康管理の原理及び方法、疾病の初期症状、体質について検討する。
小児医学第三 (精神衛生及び 精神病理学)	同	小児期の精神神経の発達及びその病的状態、精神構造について検討する。
小児医学 実習第一	同	健康小児の身体測定、行動観察、臨床検査を行い、乳児院、病院などについて実習する他、各種施設の見学を行う。
小児医学 実習第二	同	研究課題について調査、実験を行う。
小児医学実習	中村	(Ⅱ) 健康小児の身体測定、行動観察、臨床検査を行い、乳児院、病院などについて実習する他、各種施設の見学を行う。

児童文化	阪本	児童文化の本質、児童文学の変遷及び各種の児童文化財を考察する。
小児医学第四 (病理学)	斎藤	小児のかかりやすい病気について、主として予防医学的見地より重点的に一単位講義する予定。
小児栄養学	武藤	(Ⅲ、Ⅳ) 胎児、乳児、幼児の栄養に関する理論と実際。
個人 公衆衛生学	跡見	(Ⅱ) 個人衛生大要、母性衛生特に妊娠、分娩、産褥の生理及び病理に就て。
青年心理学	牛島	(Ⅱ) 青年期における心理的、社会的成熟現象を研究する。
精神検査第一	同	(Ⅲ) 知能検査、性格検査その他の検査の概説と演習。
家庭教育第二	同	(Ⅲ) 家庭における世代、きょうだい、結婚の諸問題。
幼稚園 ナースリー第一 乳幼児心理学	津守	幼児教育の対象としての乳幼児の精神発達について講義する。
幼稚園 ナースリー第二	同	幼児教育の科学的基礎および保育内容の諸問題について検討する。
家庭教育第一	同	家族関係殊に親子関係を中心にして、家庭および社会環境と児童の発達との関係を検討する。
青年心理学演習	同	児童後期および青年期の精神発達に関する文献の総括。
家族関係演習	同	家族関係の心理に関する文献の講読および総括。

食物学科		
科目名	担当教官	講義内容
栄養化学	稲垣	栄養素の化学、生理的意義、新陳代謝及び栄養要求量等について述べる。
ビタミン学	同	各種ビタミン発見の歴史、構造、性状、生理作用、所在等について述べる。
栄養学実験	稲垣 福場	() 天然物よりビタミン、酵素の分離並びにそれらの化学的定量及び動物実験を行う。
酵素化学	福場	(Ⅲ) 食物の消化、栄養素の生体代謝及び食品の加工貯蔵等に関する酵素について概説。
全上実験	同	(Ⅲ) 同
栄養化学演習	同	(Ⅲ) 同
栄養生理	小池	(Ⅲ) 生理学および生化学の立場からみた栄養学について。各種栄養素の生理的意義。高血圧、動脈硬化、ガンなどの慢性病と栄養との関係。バランスのとれた栄養、その他。
食品化学第一	木原	(Ⅲ) 食品の成分に関する基礎化学。
農産食品化学	同	(Ⅲ) 農産食品の処理、加工、貯蔵に関する化学。
食品化学 実験第一	同	(Ⅲ) 食品の一般の分析、水の分析。
水産食品化学	山西	(Ⅱ前) 水産食品の成分及び調理、加工、貯蔵中の変化。

食品化学	同	(II後) 食品の色、香、味の成分及び有毒成分に関する化学と嗜好食品。
食品化学実験	同	(III) 食品の主成分の分離、定量及び簡単な有機合成。
天然物取扱法	辻村	天然物取扱方を実際例によつて研究する。
食品加工	松本	(III前) 食品加工中の主として醗酵によつて出来る食品加工を述べ就中調味食品加工に重点を置いて説明し、更に関連する微生物の基礎的のことも解説する。
畜産食品学	藤巻	(III) 乳、肉、卵の貯蔵、加工法並びにその間に生ずる質的变化を主として化学面から解説してゆくとともにそれらの新しい研究を紹介する。
献立論及び実習	松元	(III、IV) 栄養学を基礎として献立への過程を述べ、献立作製の演習を行う。
調理実験	同	(II、III) 調理に関する基礎的実験を行う。
調理学II	同	(III) 主として中華料理の一般を講義、実習する。
食生活史	同	(III、IV) 主として基礎的調理の一般を講義、実習する。
食糧政策	桜井	(III) 吾国の食糧の供給及び消費について食品学の立場より述べる。
食物衛生	平井	食物衛生に関する概要を講述。
調理学III	由井	(III、IV) 日本料理一般(儀式料理をも含む)及び病人食餌についての講義実習する。
調理学I	吉松	(II) 主として基礎的調理の一般を講義、実習する。

調理学II	同	(III、IV) 主として欧風料理の一般を講義、実習する。
調理実習	伊東	(III、IV) 前期、基本調理、手法別、食品別による調理の基礎を実習する。
調理実習	同	(III、IV) 後期、調理実験、調理学に関する実験を行う。
調理学	同	(III、IV) (児童学科学学生のため)手法別、食品別による基本調理、調理実験をする。
セミナー	全教官	外国語で発表された研究論文の解説と討論
卒業論文	〃	栄養化学、食品化学、調理学の各研究室に所属して行う。

被服学科 (被服科学コース)

科目名	担当教官	講義内容
染色化学第一(総論)	矢部	染料染色の一般概念。染色物の堅牢度。部属別染料の特性。
染色化学第二(各論)	同	染料の染色性各論。(直接、酸性、硫化、ナフトール、建染、酸性媒染等。)
染色化学第三(特論)	同	測色学。発色理論。染色の基礎化学。(染着平衡と染着速度論)
染色化学実験第一	林	直接染料、酸性染料の染色。染料の鑑別。染着量定量法等。
染色化学実験第二	同	硫化、ナフトール、建染々料の染色、合成繊維の染色等。

被服化学第一	松川	繊維の物理化学、化学を主とする。本年度はR.Hill, "Fibres from Synthetic Polymerse"
被服化学第二	矢部	染色化学に関する外国図書の講読。 Th.Vickerstaff: "The Physical Chem. of Dyeing" (1954)
被服材料第一	松川	繊維原料、繊維化学、紡織学その他、被服材料全般に関する基礎的な事項。
被服材料第二	同	繊維構造論、高分子化学序論、可塑性、ゴム等の概説を加え、「第一」を補う。
被服材料実験第一	林	基礎実験、繊維の鑑別、混合繊維の分離定量、繊維の取り扱いに関する実験。
被服材料実験第二	松川	繊維および関連する高分子化合物の化学反応、繊維構造、性能に関する実験。
被服整理学	矢部 松川	界面活性剤、洗浄力論、洗浄力試験法、被服の損傷劣化。防汚、防水加工等。
被服整理学実験	矢部 松川 林	洗剤の分析、洗浄力の比較、処理による組織の劣化、糊付、樹脂加工等。
被服科学講	矢部 松川 林	近着外国文献(英米独)の輪読及び討論。
被服機構学	真島	(II) 布地の力学被服損耗の機構。防暑、防寒被服の機構。
被服衛生	松岡	(III) 環境と人体機構を中心に、その適応における被服の役割について述べる。

被服学科 (被服構成コース)		
科目名	担当教官	講義内容
染織工芸概論	谷田	(II) 機能、材質、技術及び意匠各論並びに染織工芸史の概説。
東洋服飾史概説	同	(IV) 中国服飾史。
西洋服飾史概説	同	(III) 古代より。
服飾美学概論	同	(III) 服飾類型、美的範囲、流行の各論。
服飾美学演習	同	(IV) 講読及び資料検討。
服飾史特講B	同	(III) 西洋中世の服飾。
日本服飾史概説	山辺	過去の日本服装を時代を追って概説しこれに対する正確な智識を得しめる。
服飾史特講(A)	同	奈良時代の服飾。特に中国との関係より見たる衣服令以後の服飾。
色彩学概論	石山	(I) 服装を主とした色彩理論を実技と平行させながら講述する。
服飾意匠学概論	同	(III) 衣服造形の方法論について前半は実技を通し、後半は基礎理論に重点をおいて述べる。
服飾意匠学特論	同	(IV) 服装の意匠学的、史的展開 特に西洋の衣服造形に関して意匠学的歴史的見地から論述する。
被服構成学並びに実習第一	柳沢	(I) 被服構成に関する基礎的な事項。ブラウス・スカート実習。

被服構成学 並びに実習第一	石毛	(II) 被服構成に関する基礎的事項。ワンピースドレス・コート実習。子ども服に関する諸問題。女児服・男児服実習。
全上第二	柳沢	(III前) 人体形態論。衣服の立体構成に関する各種実験。
全上第一	同	(III後) スーツ実習。
全上第二	成田	(IV) 被服構成に関連のある諸問題。アフタヌーンドレス実習。
全上第一	石田	(III前) 単長着について講義と実習。
全上第二	同	(III後) 帯・羽織について講義と実習。
全上第三	同	(IV) 袷長着・綿入れものについて講義と実習。襦袢について研究。

家政学部 共通		
科目名	担当教官	講義内容
家政学原論	松平	(I) 家政学成立の歴史、家庭生活の意義、家庭の機能、家政学の本質・研究方法など(前期のみ)。
家族経済学概論	同	(I) 家族経済学の一般的・基礎知識と理解(後期のみ)。
家族経済学 その一 その二	同	(II) 家族経済学総論、収入論、支出論、家事会計論及び経済準備論について講義と研究。
家計簿概論 その一 その二	同	(III) 家計簿記について、講義と実習と研究。

児童学概論	松村 平井	(I) 人間科学の一領域の児童学に関する概説、小児保健の概要及び育児の要点について口述する。
被服学概論	谷田他	(I) 被服材料、染色、整理、服飾美学、意匠、構成の概要。
家庭管理学概論	稲葉	(III) 家庭生活における労力と時間の使い方に関する一般論。
家庭管理学特論	稲葉	(III) 家庭経営上、家庭生活の改善点を調査検討する。
食物学概論	木原 稲垣	(I) 食品の組成及び取扱法及び栄養学の概要。
家庭看護法	教授 A	家庭看護の理論と実際について口述し実習を兼ねる。

教職教育科目		
科目名	担当教官	講義内容
教育心理	内田	(II) 教育心理学の本質と領域。学習心理の諸問題。
教育原理 (指導を含む)	宮田	(I, II) 教育と学校教育、学校教育の歴史、教育哲学の類型、教育指導の本質。
教育哲学	岩崎	(II, III) 実際教育学と教育科学、社会体制と人間形成、現代教育の諸問題。
西洋教育史	同	(II, III) 近代教育の形態と思想の変遷。
教育行政要論	関野	社会的歴史的視点から戦前戦後の教育行政制度の性格の考察並に課題。
教育原理	吉田	(II) 教職課程の必修、後期にも宮田助教授の同一単位の講義あり。目的、内容、方法、指導をふくむ。

視聴覚教育	教授A	未定
教育社会学	"	(Ⅲ) 社会の変化にともなう人間形成の変容と体制。日本における問題点。
教科教育法	各教官	各免許教科毎。講義Ⅲ(観察参加と実習はⅣ前期)

昭和33年度行事予定 (学生関係)

4	10	木	入学式	
"	11 12	金 土	入学指導	
"	下	旬	就職指導	4年生のみ
5	上	旬	定期身体検査	2年生以上
"	中	旬	遠足	
"	中旬~6月		球技大会	
"	20(火)~6.19(木)		高校・中学観察参加	4年生のみ
7	3(木)~	17(木)	第一期教育実習	"
	7.3(木)~9.11(木)		夏期休業	
9	3(水)~	17(水)	第二期教育実習	4年生のみ
10	3(金)~	9(木)	前期試験	
10	10(金)~	20(月)	前期休業	
10	20	月	後期授業時間割発表	
"	21	火	後期授業開始	

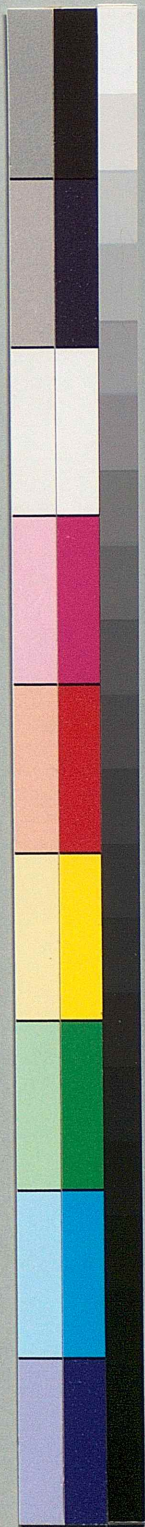
10月～11月			体育祭・文化祭	
11	29	土	開学記念日	休業
12.25(木)～1.7(水)			冬期休業	
2.6(金)～12(木)			4年生試験(専攻科等も含む)	
2.20(金)～26(木)			3年生以下試験	
3	中旬		卒業式	

各科補導委員

昭和33年度

科別	学年	4年(30年度入学)	3年(31年度")	2年(32年度")	1年(33年度")
哲学科		藤田先生	藤田先生	勝部先生	石塚先生
史学科		和田"	中村英"	赤木志"	市古"
地理科		松井"	"	"	"
国文科		次田"	堤"	松村"	関根"
中文科		網"	"	"	"
英文科		鍋島"	木原"	西崎"	滝沢"
教育科		波多野"	阪本"	周郷"	吉田"
体育科		戸倉"	渡辺"	林"	石山"
音楽科		守田"	遠見"	柴田"	蘭田"
数学科		伊関"	松田"	立花"	稲葉"
物理科		小川"	大野"	阿阪"	坂上"

化 学 科	阿 武 "	和 田 "	立 花 "	内 海 "
動 物 科	岡 "	荒 木 "	久 米 "	柳 田 "
植 物 科	大 槻 "	太 田 "	津 山 "	塚 本 "
兒 童 科	松 村 "	水 原 "	津 守 "	平 井 "
食 物 科	吉 松 "	松 元 "	福 場 "	山 西 "
被 服 科	石 山 "	林 "	矢 部 "	柳 沢 "



授業時間割 (一般教育、体育、外国語、基礎教育、教職科目)

	1 (8.30-9.20)	2 (9.20-10.10)	3 (10.20-11.10)	4 (11.10-12.00)	5 (13.10-14.00)	6 (14.00-14.50)	7 (15.00-15.50)	8 (15.50-16.40)	
月	社 社会学 犬橋 自 化学 岡島 基礎化学 I 内海 " II 立花・林 教 (西洋教育史) 岩崎 [教育哲学]	社 (法学 I) [政治学] 井上 自 物理学 玉木 " 生物学 荒木・太田 " (統計学) 魚返 総合コース 教 教育行政 関野	独 語 理 I 吉田 体育実技 I 家 戸倉・石山 体育実技 I 國中音 石山・戸倉 (講義 I) 哲史地教体家 森・戸倉	社 経済学 武田 体育実技 I 化生 石山・戸倉 体育実技 I 哲史地 林・戸倉 (講義 I) 國中音 理 森・戸倉	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝
火	英語 文 I A トムソン " 文 I B 中村 " 理 II 野島 独 語 理 I 志田 文 II 横溝	英語 理 I 堀 " 家 I トムソン " 文 II A 堀 独 語 文 I 志田 " 理家 II 横溝 仏 語 全 I 田島	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	
水	人 心理学 阪本 " 宗教学 岸本 社 (人文地理学) 能 " [家政学] 松平 自 化学(B) 岡島 基礎物理学 II 荒木・大槻 独 語 (高級) 志田 教 (教育原理) 吉田	人 文学 I 関根 " II 鍋島 社 歴史学 尾鍋・市古 自 地学(天文気象) [同] 佃 " 数学 林田	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝	英語 文 II 西崎 独 語 家 I 横溝

木	英語 理 I 野島 " 家 I 滝沢 独 語 文 I 吉田 " 理家 II 志田	総合コース A 木原 英語 文 I A 西崎 " 理家 II 野島 " 理家 I 吉田 " 理家 I 志田 仏 語 全 II 周郷 教 (教育社会学) 坂元 [視聴覚教育]	英語 文 I B 伊吹 独 語 文 II 志田	体育実技 I 英数 古江・森 " II 國中音 森・古江	体育実技 II 化生 古江・石山 " II 家 石山・古江
金	人 音楽(声楽) 藪田 社 [文化人類学] 石田 基礎物理学 I 阿阪 教 (教育心理) 内田	人 哲学 藤田・石塚 " 美学・美術史 町田 社 法学 II 潮見 自 地学(地質鉱物) [同] 赤木 教 (教育原理) 宮田	体育実技 II 英教 石山・林 (体育講義 II) 文 渡辺・小野	体育実技 II 数物 林・石山 (体育講義 II) 理家 渡辺・小野	
土	英語 家 II 木原 独 語 文 I 志田 仏 語 全 II 小泉 基礎生物学 I 塚本・荒木	英語 文 II A 堀 " 文 II B 野島 独 語 家 I 志田 仏 語 全 I 小泉 基礎物理学 II 坂上			

備考 1 科目につけた括弧について () は前期のみ [] は後期のみ。括弧のない科目は前後期にわたるもの

2 外国語の組別について

区分	A	B
英語	哲、史、地、教	国、中、体、音

3 化学は主として文教育学部と家政学の一部を A、B の 2 組に分けたから担当教育の指示をまつこと。

4 一般教育各系列には適当と思われる履修年次を表示してない。

